

『玉縄のお正月』概要と取り上げた根拠

正月の風習などは、地域によって多少の差はある。年末の「煤掃き」「餅つき」「年越しそば」などは、どの地域も大差なく行っている。おおきな差が出てくるのは時代の推移だ。

玉縄地域でも、関東各地の正月を中心とした行事と大差ないと思うが、時代によって風習が変わる。その推移に興味を持っていた方々が、玉縄各地区の高齢者をお訪ねして聞き取り、記録したものが残されている。収録した時代は昭和 25 年以降であるが、江戸時代末期から、明治、大正、昭和 10 年頃までの伝承や、祖父から家族・親族の言い伝えなどを聞き取り調査して記録されている（元・玉縄郷土研究会）。

それによると、年末年始の風習に大きな変わりはない、変わったのはラジオ、テレビの発達により、家において除夜の鐘を聴き、それも全国の名鐘の音を聴き、全国の著名神社の初詣での様子など総て自宅で見る時代になったことだ。だから初詣に出かけない人が増えた。また、御爺さん、御婆さんの話から、昔は正月の門付け芸人が幾組も来たが、昭和 20 年代になって全く来なくなったと言う。我々の年代でも羽根つきが無くなり、バトミントンに替わっている。

今回（の公開講座で）は、そのような中にある時を捉えて、今、皆様が記憶している故郷の正月と比較して欲しいと思い、古き時代の正月風景を取り上げた。個々の行事については講座資料のとおりである。

玉縄歴史の会 関根 肇

【講演概要】

公開講座は、はじめに講師から、上記『玉縄のお正月』概要と取り上げた根拠に加えて「玉縄地区の歴史については、度々取り上げられているのでよく知られていますが、民族的、風俗習慣の内容に触れる機会があまりありませんでした。昭和 25 年、当時の龍寶寺（※）住職が主宰となり、玉縄郷土研究会を立ち上げました。同研究会では檀家有志、老人会、お年寄り宅を訪問し、玉縄地区の風俗・慣習等の聞き取り調査を行いました。その記録が残されていますので、本日はその記録から「玉縄のお正月」について話し、皆様の故郷やお家でのお正月と比べて違うところなどありましたら是非、語り合う時間にしたいと思います」と説明があり、講座配付資料「玉縄のお正月」（A 4 判 5 頁）の内容を講演されました。

（参考）『玉縄の歴史と文化 ～玉縄風土記～』（平成 26 年(2014)1 月 玉縄 歴史の会編集・発行）

■ 162~167 頁：第 3 章・玉縄の人々の暮らし 第三節・年中行事 ～ 1. 正月の準備、 2. 正月、 3. 「二十日（はつか）正月とえびす講（こう）」、 4. 「正月の『門付（かどづ）け芸』

【まとめ】

講師は、「玉縄のお正月」について

- ◇ お正月には、神様の大きな力があることを納得させるためにいろいろの習慣があったのではないのでしょうか。
- ◇ お年玉は、子供たちにばら銭で上げました。
- ◇ 玉縄地区の人は、鎌倉に行かないで、藤沢に買い物に行きました。初詣は鶴岡八幡宮には行かないで、遊行寺に行きました。
- ◇ 今日話した内容は、いいこととか悪いことという問題ではなく、そういう風習として伝えられていることを説明しました。

とまとめられました。

【語り合い】

最後に講師から「玉縄地域に伝わるお正月の様子を説明しましたが、皆様が記憶している故郷のお正月と比較していかがですか、違ったところがあったら、お話ししてください」と公開講座会場の受講者に語りかけ、

★ A氏 ～

- 私の郷里は四国地方です。瀬戸内海沿岸は採石が盛んな地域ですので、石臼で餅搗きをしています。関東地方は木製（櫨）の臼ですね。
- 大船・名主家の古文書には、(明治初期) 何日もかけて年始回りをしていることが書かれています。

★ B氏 ～

- 私の郷里は東北地方です。お飾りに、橙の代わりにミカンを使用しました。
- 囲炉裏の座は、神棚を背にして「旦那座」、台所に近いところを「かか座」と呼んでいました。

と二人の受講者からそれぞれの故郷に伝わる習慣・風習の紹介があり、参加者が語り合う時間を持った新しい形の公開講座でした。

.....

(参考1) ◆ 公開講座配布資料 ～「玉縄のお正月」 A4判 5頁・5枚

(参考2) ◆ 本公開講座は、新型コロナウイルス感染防止対策の基本（マスクの着用、手指消毒、席の間隔確保、会場内の換気）を徹底して、開催された。

(参考3) ◆ (※) 龍寶寺（りゅうほうじ）：鎌倉市植木 129 番地所在。陽谷山瑞光院（ようこくさんずいこういん）と号す、曹洞宗。本尊・釈迦如来（しゃかによらい）、脇侍（きょうじ）・文殊菩薩（もんじゅぼさつ）、普賢菩薩（ふげんぼさつ）。開山・泰繁宗栄（たいじよそうえい）禅師（永禄4年（1561）12月13日寂）。北条綱成（つなしげ—3代玉縄城城主）・同氏繁（うじしげ—4代同城主）・同氏勝（うじかつ—6代同城主）・鎌倉幕府第三代将軍源実朝の位牌安置（『玉縄の歴史と文化～玉縄風土記～（92頁）』平成26年（2014）玉縄歴史の会編集・発行）。